

た。ネールは英國の政府の信義に就ては何等疑を挾んでおらず、このことは印度の對日抵抗繼續に對して吉兆であると共に印度の自由に關する將來の討議に對して希望を持たせるものである

△ハバロフスク電臺（ロイテル電） 四月十三日

（ロンドン發）印度國民會議派指導者ネールは新聞記者との會見に於て次の如き意見を述べた

「日獨兩國が戦争に勝利を得て世界を征服する様なことがあればそれは世界の悲劇である。國民會議派は親日でないと同時に反英感情を持つものではない。印度國民は日本軍の侵襲前に各々その職場を守つて最後の血の一滴迄抗爭しなければならぬ」

◎佛本國、食糧難に悩む

△西貢電臺 四月十四日

（ヴィシー發）佛本國に於ては月下パンの不足に當り全國農民に叫びかけて小麥の供出運動が盛んに行はれつつあるが同運動代表者は佛國は今や各部門に於て増産第一主義の時代であり増産の戰士に毎日のパンを不足なしに供給する爲に農民は小麥を隠さないで政府所定の條件に従ひ供出すべき專當局者は農民が尙相當量の小麥ストツクを保持しつつあることを熟知してゐるが若し供出を拒み或は開相場を以て賣買する旨等の點を指摘して農民が忿を去つて國家に協力すべき事を強調した。



外國宣傳情報 第二百五十七號

昭。一七。四。一七
情報局第一号第二號

資料は外國發信局發信内容を其儘採録しあり、敵國又は第三國筋の宣傳の意圖による作爲的な報道も少なからざるべきを以て取扱には特に注意を要す。

◎ソ聯、日ソ條約嚴守再強調

條約締結一周年記念に當つてブラウダ紙は條約嚴守方針を再闡明せる點注目されるがその論述に於て戰勝に際し日本にして自覺あらざれば危機招來は必然と相當度のいや味底流しあり又他方米國筋は日本自體に於て對ソ衝突を豫測しあり従つて情勢の轉を窺つて必ずや對ソ關係破綻せしむべしと日ソ戰不可避を宣傳しあり

△モスクワ電臺（タス通信） 四月十三日

十三日、日ソ中立條約締結一周年記念日に當り情報局紙ブラウダ紙は左の如き論説を掲げ

である

「日ソ兩國間に中立條約が締結されて以來十三日を以て早くも滿一年を経過した。この條約はソ連の平和政策に従つて世界戦争が更に廣汎な領域に迄發展することを阻止せんとする目的に出たものであるが、それは又同時に永らく懸案となつてゐた日ソ關係の進展の結果であり、ソ連は斷じて自國の權益を蹂躪されるがごとくにすることが如き國ではないといふ明白なる事實が確認された結果であつた。十月革命以後日ソ關係は非常に重大な試練の下にさらされてゐたことは何人も知るべきである。

即ち一九一八年から廿二年に亘る日本の極東シベリア干涉、北樺太占領、滿洲占領、ハツサン湖及びハルビンソゴル河其他における事件等はその現れであつたが、これ等の試練を経て一九四一年四月に至り日ソ兩國は遂に中立條約を締結するに至つたのである。而してこの事實は永年の經驗に徴し日本の支配者達がソ連と平和的友好關係を結ぶ方がアアシスト冒險者流の併呑主義的野望から不斷に衝突を繰返すよりは遙かに得策であることを意味するのである。一九四一年には中立條約締結兩國に直接關係ある重大な出來事が疾風迅雷的に起つた。即ち獨逸は自ら訓印した條約を片づ端から廢棄して斷打的にソ連を攻撃し來つた。しかしこの攻撃はソ連民衆をしてソ連領土を侵略する惡黨共を徹底的に膺懲せんこの決意を以て武器をもつて起したためたのである。

次いで一九四一年十一月二十五日日本は既に侵略主義の本質を有するものとして知られてゐる、防共協定の五ヶ年間延長を約し十二月七日には日本側は突然米英兩國の海軍基地奇襲作戦を斷行して戦争は太平洋方面にも波及するに至つたのである。更に十二月十一日に至り日獨伊三國は新三國條約を締結して三國は互に米英露の日以来共同作戦を遂行すること共に單獨講和を締結せざる旨を締約したのみならず戦争が勝利に終つた後においても三國條約の精神に従つて相互に協力することを約したのである。かく是日ソ中立條約は又もや深刻な試練の前に立たされたのである、日ソ條約實施第二年月に入るに當り我々は極めて複雑怪奇な世界情勢の中にあつてなほこの中立條約は積極的な役割を演じその効果を擧げてゐることを強調しなければならぬ。

先づソ連は一度訓印した條約は決してこれを廢棄するやうなことはしない立場をとつてゐるからその効果は今日まで保持されてゐるのである。その證據には日ソ漁業假條約の一年を維持する用意あることを言明してゐるのである。日ソ中立條約を更に存続せしめるためには日本は條約に對しソ連が採つたと同様な態度を採らねばならない。即ち既に落着をみねばならないのである。

軍事的成果によつて有頂天になつてゐる日本のファツシヨ的軍部は北方に對する併呑戦争に鋭舌を費すことは誰よりも先づ日本自身の不幸を齎らすものであることを知らねばならない、若し日本側でその引受けた約束を嚴格に尊重すれば日ソ中立條約は現下の複雑且つ重大な國際情勢の中にあつてなほ兩國民衆に對しその重要性を保持するであらう。

△ワシントン電臺（UP電） 四月十三日

日ソ中立條約調印一周年記念日に際し日本人の間には同條約はたゞ單に現存の日ソ兩國關係を維持することが日本に好都合であるが故にこれまで遵守されて來たに過ぎないとの感

が廣く行き亘つてゐる。日本はこの條約を違反することが有利となれば忽ちこれを破るであらう。ソ連はこの事を知つており、第二の眞珠灣攻撃を邀ふべき準備をしてゐる。十二月七日の太平洋戦争勃發後ソ連が日本を攻撃しなかつたことに對する非難は獨軍に對する奇蹟的なソ連軍の抗戰成功とスターリンの決断は健全な戦略に基くものであるとの感から一般的には免れた。極少いものである。日本は種々の計畫を有してゐるが、これは非常に効果の衝突は不可避であると思つてゐるこの感が深い。ソ連が軍部戦線で全力を出して戦ふやうになる時こそ日本にとつて最も論理的な行動開始の時期であらう。

秘

外國宣傳情報 第二百五十八號

昭・一七・四・一八
情報局第一部第二課

本資料は外國發信局發信内容を其儘採録しあり、敵説又は第三國筋の宣傳の意圖による作爲的な報道も少なからざるべきを以て取扱には特に注意を要す。

◎日本領の全域に抗日騒動

朝鮮臺灣人等の抗日進行運動は敵側に於て従來より極めて頻繁に繰返へされてゐるがこの種民族分裂宣傳は常に朝鮮、臺灣、滿洲に於ける運動を同時連繫せしめ且つ内容一貫せるものを執拗に行ひある點顯著なり

△重慶電臺（UP電） 四月十四日

大公報の報道によれば重慶國民黨は日本の傀儡たる現在の滿洲國の顛覆を企圖し四月十五